

## 平成 21 年度学術情報委員会活動報告

### I. 会議等の開催状況

#### (委員会)

- ・ 第 1 回学術情報委員会 (平成 21 年 7 月 23 日開催)
  - 1. 今年度の活動方針及び重点事項について
    - (1) 学術機関リポジトリに関して
    - (2) 国際 ILL (Global ILL Framework) に関して
  - 2. ワーキンググループの設置について
- ・ 第 2 回学術情報委員会 (平成 21 年 11 月 30 日開催)
  - 1. 理事会への活動報告について
  - 2. 学術機関リポジトリワーキンググループの活動について
  - 3. GIF ワーキンググループの活動について
- ・ 第 3 回学術情報委員会 (平成 22 年 5 月 20 日開催)
  - 1. 理事会への活動報告について
  - 2. 「学術機関リポジトリに関する調査」を踏まえた今後の課題及び理事会への提案について
  - 3. GIF ワーキンググループの活動について

#### (学術機関リポジトリワーキンググループ)

- ・ 第 1 回学術機関リポジトリワーキンググループ会合 (平成 21 年 9 月 14 日開催)
  - 1. 活動方針について
  - 2. アンケートの実施について
- ・ 第 2 回学術機関リポジトリワーキンググループ会合 (平成 21 年 12 月 24 日開催)
  - 1. アンケートのとりまとめについて
- ・ 学術機関リポジトリに係るアンケートの実施や日韓 ILL/DD マニュアルの改訂作業等について、メール交換による担当者間の意見調整を随時行った。

#### (GIF プロジェクト・GIF ワーキンググループ)

- ・ 第 1 回 GIF プロジェクト, GIF ワーキンググループ合同会議 (平成 21 年 10 月 23 日開催)
  - 1. 日米, 日韓 ILL/DD の現状について
  - 2. 日韓 ILL/DD マニュアルの改訂作業について
  - 3. NCC 3rd Decade Conference への参加について

### II. 活動内容

## 1. 学術情報委員会の活動について

- ・今年度は「機関リポジトリの普及・促進」と「ドキュメントデリバリーの国際化の推進」を中心に取り組むこととし、そのためのワーキンググループとして、それぞれ「学術機関リポジトリワーキンググループ」及び「GIF ワーキンググループ」を設置した。
- ・「GIF プロジェクト」については、前年に引き続き活動することとした。
- ・機関リポジトリについては、学術機関リポジトリワーキンググループによるアンケート調査結果を踏まえ、『学術機関リポジトリに関する調査』を踏まえた今後の課題について」の提案を理事会に行った。

## 2. 学術機関リポジトリワーキンググループの活動について

- ・開催の第1回会合（平成21年9月14日）において活動方針を決定、それにもとづき、学術機関リポジトリに関して、各館での実施状況と課題を把握し、国大図協の今後の対応策を検討するため、アンケートを実施することとした。
- ・会員館へのアンケート「学術機関リポジトリに関する調査」を平成21年10月7日付けで送付した。
- ・各館からのアンケート調査報告を個別記述を含めてとりまとめ、当委員会に報告した。平成22年4月19日、当委員会から「学術機関リポジトリに関する調査」として、会員各館に報告した。

## 3. GIF プロジェクト・GIF ワーキンググループの活動について

### (1) 今年度活動

- ・平成21年度 GIF プロジェクトと GIF ワーキンググループの第1回合同会議を10月23日に開催し、日韓 ILL/DD マニュアルの改訂作業をスタートさせた。その後、改訂作業を行い、平成22年4月14日に改訂版をホームページにアップした。また、紀伊国屋 OCLC センター所長の交代に合わせて、日米 ILL/DD マニュアルも改正した。

GIF ホームページ：<http://wwwsoc.nii.ac.jp/gif/index.html>

- ・平成21年12月25日、お茶の水女子大学にて NCC（北米日本研究資料調整協議会）の GIF 担当（坂井氏、伊藤氏）と日本側 GIF プロジェクトメンバー（大場、茂出木、相原、齋藤）との間で会合をもった。
- ・平成22年3月22-23日に NCC の 3rd Decade Conference が開催され、栃谷名古屋大学附属図書館事務部長を派遣した。

### (2) 日米 ILL/DD プロジェクト

#### ① GIF プロジェクト参加状況

参加機関数は平成22年4月1日現在で日本側152図書館、米国側79館であり、平成21年8月から日本側が2大学図書館の増加、米国側4大学図書

館の増加である。

② 現物貸借サービス参加状況

現物貸借サービスの参加状況は、平成 22 年 4 月 1 日現在で日本側 82 図書館、北米側 44 図書館であり、平成 21 年 8 月以降、日本側 2 図書館の増加、北米側 1 図書館の減少となっている。

③ 日米 ILL/DD 実施状況

平成 21 年度 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日までの日米 ILL/DD の実施状況は、表 1 のとおりである。前年同期に比べ（昨年度は 5 月分であるが）、依頼件数で 357 件減、受付件数で 59 件減である。日本側受付分の謝絶率は 67.8% である。（56.8%（17 年度）→66.7%（18 年度）→66.3%（19 年度）→73.0%（20 年度）→71.8%（21 年度））。一方、日本側依頼文の謝絶率は 49.0% である。（45.1%（17 年度）→51.4%（18 年度）→58.6%（19 年度）→45.2%（20 年度）→47.6%（21 年度））

表 1 日米 ILL/DD 実施状況（平成 21 年 4 月～平成 22 年 3 月）

	依頼件数				受付件数			
	完了	謝絶	その他	計	完了	謝絶	その他	計
文献複写	702	712	0	1414	457	673	0	1130
現物貸借	190	146	0	336	188	688	0	876
合計	892	858	0	1750	645	1361	0	2006

(3) 日韓 ILL/DD プロジェクト

① 参加状況

平成 22 年 4 月 1 日現在、日本側参加館は、111 図書館、韓国側参加館は、278 館となっている。平成 21 年 8 月以降、日本側で 1 図書館、韓国側で 2 図書館の増加となっている。

② 日韓 ILL/DD 実施状況

日韓 ILL/DD は平成 16 年 11 月から暫定サービスが開始され、平成 19 年 4 月からは ISO ILL システム間リンクによる本格運用に移行している。平成 21 年度の 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日までの日韓 ILL/DD の実施状況は、表 2 のとおりである。前年同期に比べ、依頼件数は 61 件の減少、受付件数は 90 件の増加である。謝絶率は依頼側が 32.4% で昨年度（35%）から改善されている。受付側は 27.1% で昨年度（29%）と同程度であるが、日本側受付件数が依頼件数を大きく上回っている。

表 2 日韓 ILL/DD 実施状況（平成 21 年 4 月～平成 22 年 3 月）

	依頼件数				受付件数			
	完了	謝絶	その他	計	完了	謝絶	その他	計
文献複写	25	12	0	37	2,894	786	0	2,894

(4) 今後の課題

日米韓における国際 ILL 担当者の、業務的位置づけの不断の確認と継続的な業務スキルの向上

Ⅲ. 委員構成 (平成 22 年 3 月 31 日現在)

1. 学術情報委員会

- 松浦 好治 (名古屋大学附属図書館長) (委員長)
- 逸見 勝亮 (北海道大学附属図書館長)
- 山本 光朗 (北海道教育大学附属図書館長)
- 田中 成直 (筑波大学附属図書館副館長)
- 相原 雪乃 (千葉大学情報部情報サービス課長)
- 茂出木理子 (お茶の水女子大学図書・情報チームリーダー)
- 大場 高志 (一橋大学学術・図書部長)
- 矢田 俊文 (新潟大学附属図書館長)
- 三根 慎二 (名古屋大学附属図書館研究開発室助教)
- 三宅 育夫 (愛知教育大学情報図書課長)
- 米澤 誠 (国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課長)

(事務)

- 栃谷 泰文 (名古屋大学附属図書館事務部長)
- 井上 修 (名古屋大学附属図書館情報管理課長)

2. 学術機関リポジトリワーキンググループ

- 杉田 福夫 (北海道大学附属図書館学術システム課長)
- 斎藤 未夏 (筑波大学附属図書館情報管理課専門職員)
- 守本 瞬 (金沢大学情報部情報企画課情報企画係長)
- 古田 紀子 (愛知教育大学情報図書課情報サービス係主任)
- 栃谷 泰文 (名古屋大学附属図書館事務部長) (主査)
- 次良丸 章 (名古屋大学附属図書館情報システム課課長補佐) (事務局)

3. GIF プロジェクト担当

- 大場 高志 (一橋大学学術・図書部長) (主査)
- 相原 雪乃 (千葉大学情報部情報サービス課長)
- 茂出木理子 (お茶の水女子大学図書・情報チームリーダー)
- 井上 修 (名古屋大学附属図書館情報管理課長)

#### 4. GIF ワーキンググループ

- 東 朋子 (北海道大学附属図書館利用支援課相互利用担当)
- 藺部 明子 (筑波大学附属図書館情報管理課図書購入係)
- 伊藤 美和 (金沢大学情報部情報サービス課相互利用係)
- 餌取 直子 (お茶の水女子大学図書・情報チーム情報サービス係)
- 谷山 秀幸 (一橋大学学術・図書部学術情報課レファレンス係)
- 森 恭子 (東京大学理学部物理学図書室)
- 工藤絵理子 (九州大学附属図書館利用支援課文献流通サービス係)

「学術機関リポジトリに関する調査」を踏まえた  
今後の課題及び理事会への提案について

**学術情報委員会の今後の課題**

(人材育成)

1. リポジトリの持続的な発展のためには、人材の継続的育成が不可欠であり、学術情報委員会として、求められる能力や育成方法について検討し、長期的な視野をもった育成方策案をまとめる。この検討には、人材委員会や国立情報学研究所の協力を得る、あるいは共同で検討する。

(関係組織との協力・連携)

2. 当協会とリポジトリ関係団体やプロジェクトとの協力・連携を進める。具体的な方策については、関係団体、プロジェクトと協議に基づき、まとめる。

**理事会への提案**

(当協会としての広報への取り組み)

3. リポジトリの理解を促進するためには、関係者、関係団体・機関の一層の理解を得ることが不可欠であるので、国立大学図書館協会として、大学関係者、関係団体・機関に向けた広報を進める。具体的には、各層・各団体への簡明な案内資料を作成・印刷し、各方面への案内や、各大学での説明に役立てていただく。担当は学術情報委員会とする。

(当協会としての国立情報学研究所への要望)

4. 各大学・機関のリポジトリの展開における国立情報学研究所の学術機関リポジトリ構築連携支援事業が果たしてきた先導的な役割は大きく、国立情報学研究所に、今後も本事業及び研修等リポジトリ構築を担う人材育成を継続することを国立大学図書館協会として要望する。

また、各機関が活用している SCPJ (学協会著作権ポリシーデータベース) は、時限的なプロジェクトではなく、より長期的な活動が可能となる事業形態を望む。国立大学図書館協会 学術情報委員会としてその検討に協力する。

(公的助成による研究成果公開の義務化、促進に向けた働きかけ)

5. 公的助成による研究成果公開の義務化は、研究成果の世界への発信にとって重要な課題であるが、この問題は、助成機関や研究者自身にかかわる問題であるので、そこでの検討の一助として、国立大学図書館協会として、シンポジウムを開催する。(必要ならば関係団体と共催)。パネリストは、助成機関、研究者団体、出版界等から招請する。